

佐賀市市民活動プラザ外部評価委員会議事録
平成 30 年度 第 2 回 佐賀市市民活動プラザ外部評価委員会

開催日時：平成 30 年 10 月 31 日（水）19：00～20：30

開催会場：佐賀商工ビル 7 階 共用大会議室 A

出席者：（外部評価委員）

西九州大学 副学長 井本浩之様

NPO 法人鳳雛塾ファウンダー 横尾敏史様

とす市民活動ネットワーク 事務局長 木村利予様

まちびと会社 VisionAreal（ビジョナリアル）共同代表 おきなまさひと様
（佐賀市）

佐賀市協働推進課 市民活動推進係 係長 無津呂忠憲

佐賀市協働推進課 市民活動推進係 主事 堀梨花

（指定管理者）

佐賀市市民活動プラザ プラザ長 内川実佐子

佐賀市市民活動プラザ 副プラザ長 高見博

佐賀市市民活動プラザ 副プラザ長 高取洋介

佐賀市市民活動プラザ 秋山翔太郎

佐賀市市民活動プラザ 内藤雄輔

佐賀市市民活動プラザ 徳永紘一郎（書記）

欠席者：佐賀女子短期大学 学長 田口香津子様

傍聴者：なし

開催内容：

1. あいさつ

○開会・あいさつ（無津呂係長）

2. 平成 30 年度（上半期）運営管理及び業務進捗報告

○配布資料

1. 平成 30 年度上半期振り返り（A4）
2. 平成 30 年度上半期 佐賀市市民活動プラザ業務達成状況報告（A3：3 ページ）
3. 佐賀市市民活動プラザのビジョン達成のためのスキーム（A3：1 ページ）

※スキームについては、前年度お配りしたものと同一ものです。

○平成 30 年度上半期についての振り返り（指定管理者責任者）

【配布資料】1. 平成 30 年度上半期振り返り（A4）

3 つの基本方針、①市民活動の実践者等に対し、活動等の場として施設提供を行う ②市民活動

団体・行政・企業等の協働・連携の場の拠点として機能する ③市民活動の実践者等に対する様々な支援を行い、事業が円滑に行われるように協力する について平成 30 年度上半期の振り返りを行った。

○平成 30 年度上半期運営管理及び業務進捗の報告（指定管理者各担当者）

【配布資料】2. 平成 30 年度上半期 佐賀市市民活動プラザ業務達成状況報告（A3：3 ページ）

①市民活動の実践者等に対し、活動等の場として施設提供を行う（資料：イエローの部分）

■業務

（1）情報収集および提供に関する業務

- ・情報コーナー：新聞から収集した市民活動情報 244 件他
- ・広報誌：毎月の発行部数 1,063 部、配布先は 7 ヶ所増えた
- ・利用者アンケート：9/20～10/10 に実施した来館者アンケートは 315 人が回答
- ・ガイドブック：作成中である

（4）研修及び講座に関する業務

- ・B 社会課題別講座実施：
5 月 25 日：京都祇園祭ごみゼロ大作戦に学ぶ～環境×まちづくりの実践～
9 月 21 日：Local Leaders Forum「グローバル視点とリーダーシップ」
～国際協力の今を知り、未来を育む～

（5）交流連携に関する業務

- ・いどばたかいぎ：41 名（5 回開催）が参加
※アンケート集計結果→83%の方が満足（やや満足含む） 51%が新たな交流があった

■運営

（1）施設利用促進に関する業務

- ・職員の研修：毎月の窓口ミーティング時に研修や振り返りを実施
- ・参加の呼びかけ：HP、FB、広報誌、チラシを中心に広報、インフォメーションコーナー等

（2）市民および市民活動のための施設提供

- ア 情報コーナー：エレベーター前掲示板に助成金情報・カレンダー、ボランティア情報掲示
- イ パソコンコーナー：利用者数 1,952 人 ※モラルの向上を願っている
- ウ フロア席：利用者延べ人数 14,310 人（前年度比 9%減）
- オ 受付窓口：来館者数：33,983 人（前年度比 1.9%減）
- カ ワーキングスペース：印刷機利用 924 件 コピー機利用 2,099 件（どちらも前年度より減）

（3）その他施設運営に必要な業務

- ・駐車券の配布：適正に配布 配布総数 39,072 枚

■管理

（1）危機管理・安全対策

- ・5 月に AED 救命訓練講習会実施
- ・6 月に実施された佐賀商工ビルの消防訓練には複数名参加
- ・7 月に危機管理・安全対策研修実施

(2) 環境維持管理

- ・環境維持管理：朝昼夜の清掃点検を実施

(3) 施設・設備・備品の維持管理、軽微な修繕業務

- ・全会議室と主要機器は毎日点検表で実施
- ・大型プロッタ及びコピー機 3 台印刷機 2 台は保守契約により点検整備を実施

■その他

(1) 施設の総務・経理業務：当団体の総務・労務・経理担当者の監督のもと処理

(2) 事務経費の執行業務：プラザ長と経理担当で執行

(4) 月次報告書等の作成・提出：10 日の提出日に送れることもある

(6) 定期協議の実施：毎月、佐賀市との定例会 2 回、会計 1 回実施

(7) 勤務交代時の業務引継ぎ：

- ・窓口は引継ぎノートや伝言掲示板での確認及び交代時の伝言
- ・職員は主に SNS やパソコン上の共有で確認
- ・毎朝礼時に連絡・重要事項を伝達し確認

②市民活動団体・行政・企業等の協働・連携の場の拠点として機能する（ブルーの部分）

■業務

(3) 調査および研究に関する業務

- ・市民活動団体の聞き取り調査：29 団体に対して実施
ヒアリングは、情報収集提供事業や人材育成事業に反映できるような聞き取り内容で実施
- ・アンケート（e-モニター）：登録者 613 名中 160 名が回答
結果⇒社会の役に立ちたいと思っている人が多い
プラザに求められていることは、活動やボランティアの「きっかけづくり」

(6) 市民参加の機運醸成に関する業務

- ・公民館との情報共有：H30.8.1 に勸興公民館のヒアリングを実施

③市民活動の実践者等に対する様々な支援を行い、事業が円滑に行われるように協力する

■業務

（ピンクの部分）

(1) 情報収集および提供に関する業務

- ・ホームページやフェイスブック：
ホームページのべ配信数 511 件 フェイスブックのべ配信数 72 件
- ・メルマガ配信：毎週月曜日に定期配信
プラザ主催イベントや助成金情報などは別途配信を実施
- ・助成金カレンダー：デザインを変更し文字を大きく改善
月末に 1 ヶ月～2 ヶ月先までの助成金情報を館内に掲示
情報を収集しやすくするため募集要項や募集チラシを併せて掲示

(2) 相談支援に関する業務：相談件数：99 件（現在の達成率 66.0%）

(4) 研修および講座に関する業務

- ・A 機能・役割別研修

- ①（こなす力）経理や労務、登記など組織を運営する上で必要とされる事務能力の獲得
 - 2. 活動量をお金の動きで可視化する経理：
7月21日：NPO 会計はじめの一步～日頃の活動とお金の動き～
- ③（伝える力）多様な媒体を使いこなし情報を効果的に伝える力の獲得
 - 5. 活動を伝えるチラシやポスター、ニュースレターのデザイン（2回）：
※2回分（4h）実施
8月25日：「伝わる」基本を身につける～手順にふりかえり、伝わる情報をつくる～
- ④（考える力）社会の変化、団体内外の環境を読み、必要とされる企画やサービスを考え出す力の獲得
 - 6. 団体の強みや社会の動きを意識した事業アイデアづくり：
6月24日：ロジカルシンキングを活かした事業づくり
- ⑤（整える力）一人ひとりがリーダーシップを発揮する組織をつくるマネジメント力の獲得
 - 7. 個々の自律を基礎とした進化型の組織マネジメント：
4月7日：ABDで『ティール組織』を読もう！～進化し続ける人と組織をひも解く～

以上、平成30年度上半期進捗状況報告でした。

3. 委員からの質問や意見、アドバイスなどをいただく

委員：

一般市民向けの研修はどのようにされているのか？

指定管理者：

交流連携に関する業務の「いどばたかいぎ」が、市民が市民活動を知る研修の一つである。
また、研修及び講座に関する業務の「ごみゼロの今を知る」研修でのアンケートでは、参加したいという方が8名。その後のフォローをしたことで、佐賀の栄の国まつりの「ごみダイエット大作戦2018」への参加につながった。
そのほか、相談支援に関する業務では、「ごみダイエット大作戦2018」の運営者である唐人町エリアマネジメント協議会からも相談を受けている。

委員：

来館者数が伸びていないということであるが、市民活動プラザの周知はほぼできてきているという感覚を持っている。しかし、来館者数が落ちてきているとは言え、これから呼び込みたい来館者は、新規なのかリピーターなのか、どちらをターゲットにしたいのか。現在、来館されている方のどれくらいが、リピーターとして利用されているのか。そのようなデータベースはあるのか。

指定管理者：

会議室の利用者についてはデータベースがある。フロア利用者はふらっと来られたり、何度も来られたりするので、集計が出しづらいためフロア利用についてはデータを取っていない。現在、フロアを利用される来館者は少ないと感じている。公民館でやっているような作業的なものをこちらに

呼び込みたいとは考えている。

委員：

研修や相談はリピート化しているようだが、リピートの方が増えているのか。

指定管理者：

NPO設立などの相談は、リピート化する。一つのNPOができると、運営のため資金調達の相談につながり、またその団体の紹介で新たな団体の相談へつながることもある。

委員：

フロア利用が減っているということだが、その件についてどのようにとらえているのか。

指定管理者：

減っているとはいえ、以前施設があったアイスクエアの時は学生が多かった。今は、学生は青少年センターに誘導し、学生が使いにくいという状況。アイスクエアの時、学生は夜の9時まで利用できたが、今は繁華街が近いので午後6時までである。学生は初回に学生証の提示と登録が条件となっているので、利用についてのハードルが上がっている。大学生からは自由に使える。フロアの利用が多い少ないということについては、良い悪いという感覚はない。多いほうが「賑わっている」ということになるので、どちらかといえば、賑わっているほうが良いという感覚。より魅力的な質の良い集まりを増やしたいと考えている。

委員：

来館者数について自己評価の目標は入っているのか？入っていなければ、そこは気にせずに「何のために利用してもらうか」というところを考えておけばよい。

佐賀市担当課の事業評価の内容はどうなっているか？自己評価の指標として出されるものと同じものを使うのか。

指定管理者：

来館者の目標数は、毎年度（基本計画及び単年度計画）決めている。

佐賀市：

佐賀市独自の評価表がある。それに基づいてプラザに限らず評価する。

委員：

HONOHONO は、どのようにデザインを変えたのか。

指定管理者：

取材ページの部分を改善した。これまでは文字数が多く、そのため読みにくいという声があった。その声を踏まえ職員間で協議し、文字の間隔をあげ文字数を 1,500 文字以内にするといった決めた。やわらかい女性向けのデザインを心掛けている。

委員：

表紙を贅沢に使っているように見える。詰め込んだらよいというわけではないが、表紙を半分にしてお情報の記載に回してはどうか。

委員：

職員間で協議したこと（現在の表紙の使い方をはじめとするデザインなど）を貫くことで、他と違うという意味合いを持たせることもできる。他と同じにしていけることが正しいという事でもない。

委員：

HONOHONO は、紙媒体だけでいくというコンセプトなのか。これは高齢者がターゲットという認識でいいか？それなのに、このフォントサイズなのか？

ターゲットが誰なのかということを明確にして、それを踏まえ作ったほうがいいのではないか。

指定管理者：

担当者が市民活動の初心者だったため、市民活動団体の活動の話を聞くと、自分自身が知りたいという思いが強く、ついつい突っ込んで聞いてしまっていた。そのため文字数が多くなってしまった。（市民活動団体の紹介部分）

指定管理者：

来館者に高齢者が多いから、HONOHONO を見てもらうターゲットが高齢者というわけではなく、新たに市民活動に携わってくれる若い方もターゲットと考えている。だからこそ担当者が言うように「自分が思いを込めて書く」という事も大切だと思っている。

委員：

私はコンセプト次第だと思う。コンセプトを貫くことが大事。あと、色が多すぎると見にくいので、シンプルなほうがよい。

委員：

ターゲットングについては、できれば「これまで出会ってきたことのない人」と考えているようだが、プラザの利用者は、どうしても仕事をリタイヤしたシニアになるのではないかな。

次に、掲示板にボランティア募集のお知らせがあったが、そんなことまでプラザの業務なのか。

指定管理者：

来館者は市民活動関係者だけではないので、一般市民の方が市民活動に参加するきっかけになればという観点で取り組んでいる。

相談の件数は増え内容も深まっている。もともとは、団体がやりたいことをアシストするという認識だった。今後、相談対応をやっていくチームづくりをどうすべきか考えていく。

委員：

企業と団体をつなぐということが、プラザの業務として認められていることなのか。取り組みとしてはとても良いことなのでぜひ頑張してほしい。

委員：

来館者数は減っているが収入は変わらない、しかし経費は減っている。これは皆さんの負担が増えているのではないか。経費として使えるものは使うようにしたほうがいいのではないか。

指定管理者：

職員は俟約が身についている。委員のご意見、アドバイスを受け職員間で共有する。

4 閉会